

科目名	社会福祉の歴史		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間福祉学科専門科目であり、社会福祉基礎科目である。

1. 社会福祉をめぐる日本及び欧米の歴史について学び、さらに社会福祉の理念と意義について理解する。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物・思想・実践を紹介し、現在に継承されている思想・実践について学ぶ。
3. 適宜、タイムリーな話題、事例を引用して身近な内容とする。

1. 社会福祉をめぐる動向について理解し、歴史上重要な事項の概略を述べることができる。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物の内、興味ある人物について説明することができる。

内容		
1	オリエンテーション	社会福祉の歴史を学ぶ意義について
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の概念、範囲について
3	社会福祉の歴史：日本 1	日本における前近代の状況について
4	社会福祉の歴史：日本 2	日本における近代の状況について
5	社会福祉の歴史：日本 3	人物・思想・実践（前近代・近代）
6	社会福祉の歴史：日本 4	日本における近代から戦後にかけての状況について
7	社会福祉の歴史：日本 5	日本における戦後から現在に至る状況について
8	社会福祉の歴史：日本 6	人物・思想・実践（近代から戦後）
9	社会福祉の歴史：西洋 1	西洋における前近代から近代の状況について
10	社会福祉の歴史：西洋 2	人物・思想・実践（前近代・近代）
11	社会福祉の歴史：西洋 3	西洋における前近代から近代の状況について
12	社会福祉の歴史：日本と西洋	人物・思想・実践のまとめ グループ討議
13	興味ある歴史上の人物の紹介・グループ発表	
14	授業全体の振り返り	
15	まとめ	

評価

筆記試験（60点）レポート（20点）発表（10点）授業態度（10点）とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合にはレポート提出を行う。

【フィードバック】課題等は返却する。振り返りシート等はコメントし学習理解を深める。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートを整理し授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 よくわかる社会福祉の歴史 ミネルヴァ書房

【推薦書】 【参考図書】 随時紹介する

科目名	養護原理		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得の必修科目である。

科目の概要

親のいない要保護児童問題が中心であった時代から、現代は家庭の子育て機能の低下による要保護児童問題へと移行してきている。「社会的養護」では、児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえながら、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題、児童養護の体系、歴史、政策、原理等、社会的養護に関する基本的事項について学ぶことにより、社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について、理解することを目指す。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
- 2) 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
- 3) 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
- 4) 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。
- 5) 社会的養護の現状と課題について理解する。

内容

1	オリエンテーション・子どもや家庭をとりまく状況：子どもと家庭における現状、その他
2	社会的養護の基礎概念 社会的養護の基本原理
3	社会的養護の基礎概念 児童福祉施設
4	社会的養護論 子ども観
5	社会的養護論 子どもの発達
6	社会的養護論 子どもと家庭を取り巻く現状
7	社会的養護論 社会的養護理論の変遷
8	社会的養護の展開 社会的養護の歴史の変遷
9	社会的養護の展開 社会的養護施策の動向
10	社会的養護の仕組み 相談体制
11	社会的養護の仕組み 養護系施設群
12	社会的養護の仕組み 障がい系施設群
13	社会的養護の仕組み 施設保育士
14	第14回 社会的養護の今後の課題
15	まとめ

評価

授業への参加度（リアクションペーパー提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスで示した箇所を、確実に次回までに読みこむこと。講義に集中できる環境をつくること。

【事後学修】講義の中で書き留めたノート・レジユメの整理をし、重要な概念や用語を振り返り理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山縣文治、林浩康 編・「よくわかる社会的養護 [第 2 版] 」・ミネルヴァ書房

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	女性と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：1年生から4年生までの選択科目であるが、J E 生のみ対象。社会福祉に関する履修者相互の学びあいをめざす。

科目の概要：少子高齢社会・人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。しかし、社会的文化的性差（ジェンダー）が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。

学修の目標：講義内容を自らの生き方と関連付けて理解し、社会保障・社会福祉の制度リテラシーの基本とすること。

内容

第4週から第14週の講義テーマについては、履修者の履修理由・希望等によって若干変更することがある。

1	少子高齢時代の持続可能な社会のビジョンとは
2	男女共同参画に関する政策・制度の変化とその影響
3	社会保障・福祉サービスに関する政策・制度の変化とその影響
4	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
5	児童の環境と出産・育児支援
6	母子・父子家庭の抱える問題
7	高齢者の自立と介護問題
8	障害者（児）の自立支援に関する問題
9	新たな貧困問題とホームレス
10	在日外国人の生活問題
11	売買春・セクハラ・DVの解決
12	福祉の仕事と教育
13	ボランティア・市民活動・NPOの役割
14	福祉を創りだした女性たち
15	レポートの報告と講評

評価

毎回の要点整理（20点）、期末レポート（80点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】期末レポートを授業内で発表し、コメントを共有する。

授業外学習

【事前予習】推薦書のうち1冊を選択し、読んでおくこと。

【事後学修】毎回の講義内容の要点をまとめ、各自のノートをまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』『ジェンダーで読む福祉社会』有斐閣選書

春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

上野千鶴子・中西正司『ニーズ中心の福祉社会へ』医学書院 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

これまで学んだソーシャルワーク論 ~ をもとに、実践場面におけるソーシャルワークについて事例を通して学ぶ科目である。

科目の概要

スーパービジョン、個人情報保護、情報通信技術の活用、権利擁護活動の意味や意義を理解した上で、具体的事例検討を通して、ソーシャルワーク論の総合的な学修をする。

学修目標（=到達目標）

- ・スーパービジョン、福祉における情報、権利擁護活動の意味や意義を説明することができる。
- ・困難事例の支援過程をソーシャルワークの理論と方法を活用して考えることができる。

内容

1	オリエンテーション
2	福祉と情報（情報の特性、プライバシーと情報共有）
3	福祉と情報（守秘義務、個人情報保護法）
4	福祉と情報（記録の方法と意義、ICT化）
5	スーパービジョン
6	支援困難事例（支援困難事例とは何か、問題解決の思考）
7	支援困難事例の検討
8	支援困難事例の検討
9	支援困難事例の検討
10	支援困難事例の検討
11	支援困難事例の検討
12	権利擁護活動の意味、意義と実際
13	権利擁護活動の意味、意義と実際
14	権利擁護活動の意味、意義と実際
15	まとめ

評価

ワークシート・小テスト（60点）、最終レポート（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】新聞や雑誌、インターネット等で、各授業テーマに関する記事等を読み、その背景について考えること

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ソーシャルワーク論 ・ で使用した教科書

科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要な科目で、社会福祉政策の中において特に福祉行財政と福祉計画の全体像を学ぶものである。社会福祉概論 ・ を学んだ上での授業展開内容であり、また社会保障論 ・ 、地域福祉の理論と方法、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童・家庭福祉論、保健医療サービス論といった科目に関連がある。なお、本科目は社会福祉士指定科目でもある。

講義では、福祉行政の意味・役割、国と地方の関係性（地方分権）、福祉行政機関、専門職配置、国及び地方における福祉財政、様々な福祉計画（国・都道府県・市町村）の概要、福祉計画の策定・実施・評価の過程といった事からについて順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。福祉行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解することができる。福祉行財政の実際について理解することができる。福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	「福祉行財政と福祉計画」をとらえる視点
2	福祉の法制度 - 憲法を中心とした福祉の法的枠組み
3	福祉行政の実施体制 - 国レベル
4	福祉行政の実施体制 - 都道府県、市町村（区）レベル
5	社会福祉と地方自治、地方分権一括法の意味 - 法定受託事務、自治事務
6	自治体における社会福祉の行政機関 - 法的根拠と主な業務
7	自治体における社会福祉の行政機関 - 主な業務と専門職配置
8	福祉財政 - 国家財政（社会保障関係費）
9	福祉財政 - 地方財政（民生費）
10	福祉財源問題をどうとらえるか
11	福祉計画 - 必要とされた時代背景
12	福祉計画 - 国の基本計画
13	福祉計画 - 自治体における福祉計画、地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画等
14	福祉計画 - 自治体における福祉計画、障害者計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画等
15	福祉計画の策定過程、授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出してもらう。提出された課題レポートにはコメントを付し、翌週以降授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】池村正道編『福祉行財政と福祉計画 - 社会福祉行財政・福祉計画 第3版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	太田 真智子、宮城 道子、富井 友子、福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉の計画策定手法について
15. まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の課題に返答し、発言や口頭発表にコメントをして学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸、宮城 道子、富井 友子、福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとにシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 7 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述およびインシデント記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%)。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美、小山 サヨ子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「医療を必要とする人への介護 ・ 」を単位取得した者のみが履修できる。

1. 医療職と連携して医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。
2. 救急蘇生の演習を行う。
3. 喀痰吸引等の演習評価を行う。

科目の概要

喀痰吸引・経管栄養の実施手順を理解した上で、喀痰吸引等の演習評価を行う内容とする。

学習目標

1. 喀痰吸引・経管栄養の確認試験に合格できる。(知識・理解)
2. 喀痰吸引(口腔内, 鼻腔内)の演習評価に合格できる。(知識・理解)(思考・技能・実践)
3. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。(態度・志向性)

内容

1	? 緊急時の対応
2	? 緊急時の対応
3	喀痰吸引概論・経管栄養概論の確認試験 (60点以上を合格とする)
4	喀痰吸引・経管栄養の実施手順の確認 (演習評価の準備)
5	演習 救急蘇生
6	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
7	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
8	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
9	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
10	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
11	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)
12	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)
13	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)
14	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)
15	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：30%

2. 筆記試験：20%

3. 演習評価の状況：50%

演習評価に合格できることを合格とする。かつ、1.2.3について、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。指定のDVDを視聴し、授業準備を行うこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自己の課題を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 『医療的ケア』メヂカルフレンド社，2014年。

推薦書 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美、小山 サヨ子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、「医療を必要とする人への介護 ・ 」を単位取得した者のみが履修できる。
喀痰吸引等の演習評価を行う。

科目の概要

喀痰吸引・経管栄養の実施手順を理解した上で、喀痰吸引等の演習評価を行う内容とする。

学習目標

1. 喀痰吸引（気管カニューレ内部）、経管栄養（経鼻経管栄養、胃ろう）の演習評価に合格できる。（知識・理解）（思考・技能・実践）
2. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。（態度・志向性）

内容

1	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
2	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
3	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
4	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
5	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
6	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
7	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
8	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
9	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
10	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
11	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
12	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
13	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
14	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
15	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：50%
2. 演習評価の状況：50%

演習評価に合格できることを合格とする。 かつ、1.2.について、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。指定のDVDを視聴し、授業準備を行うこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自己の課題を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書： 『医療的ケア』メヂカルフレンド社，2014年。

推薦書： 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	太田 真智子、宮城 道子、片居木 英人、富井 友子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

内容	
1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	相談援助にかかわる知識と技術に関する理解
3	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解1
4	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解2
5	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解3
6	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解4
7	実習課題（目標）と実習計画作成の方法 1
8	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 1
9	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 2
10	「実習記録ノート」への具体的記述方法と管理の仕方
11	個人情報保護と守秘義務の理解
12	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書（40%）や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告（60%）を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題等は返却する。発表等はコメントし学習理解を深める。

授業外学習

【事前予習】相談援助過程について確認すること。自分の関心のある福祉領域の主な施設や機関について確認すること。

【事後学修】作成した実習課題（目標）や実習計画について再度見直すこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	太田 真智子、宮城 道子、片居木 英人、富井 友子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事後学習の成果として実習報告書を作成することができ、報告会で報告することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 1
3	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 2
4	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 3
5	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 1
6	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 2
7	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 3
8	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 4
9	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 5
10	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 1
11	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 2
12	実習報告会の実施
13	実習全体の振り返り 1
14	実習全体の振り返り 2
15	まとめ

評価

実習後の事後報告書の提出（60％）と実習報告会での報告（40％）を求める。それらを総合的に評価し60点以上を合格とする

【フィードバック】課題は返却する。発表等はコメントし学習理解を深める。

授業外学習

【事前予習】実習中作成した実習記録やケーススタディワークシートを見直しておくこと。

【事後学修】実習報告会の報告書やケーススタディワークシートをはじめこれまでの実習での学習を総括しそれが、今後の自分の進路においてどのような意義を持つのかを明らかにすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	太田 真智子、福田 智雄、宮城 道子、富井 友子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。指定された実習施設で各自180時間以上の実習を実施する。相談援助実習指導の科目と関連して学習していく。

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

実習先での利用者や職員との円滑な人間関係を形成できる。実習中対象となった利用者への支援計画を作成することができる。実習先でのチームアプローチの実際についてとらえその概要を説明することができる。社会福祉士として要請される職業倫理について具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先の経営管理の実際状況について理解し、具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先とその地域の諸社会資源との関連について理解し、説明することができる。

内容

- 1利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- 3利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- 6社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- 8当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。

評価

実習指導者による実習評価や巡回時の学生の様子、実習指導者からのコメントを元に総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】本実習の事前指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。
- 【事後学修】本実習の事後指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』 弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』 ミネルヴァ書房

科目名	人間福祉特論 B (展開)		
担当教員名	宮城 道子、大山 博幸、野島 靖子、二瓶 さやか		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科教員によるオムニバス講義。現代の福祉について視野を広げ、多様性と総合性の理解を深めることにより、福祉の学びのまとめとなる有益な選択科目である。

科目の概要

社会福祉の体系的理解のための講義を行う。社会福祉関連学会や研究の動向、トピックスについて講義する。

学修目標 (= 到達目標)

福祉専門職に求められる資質を理解し、今後の成長の糧とする。

内容

1	(宮城) オリエンテーション・福祉におけるミッションとは
2	(福田) 非行の子供に関する制度について
3	(福田) 学童保育の今とこれから
4	(福田) 日本と世界の子ども貧しさについて
5	(野島) 認知症ケアの歴史
6	(野島) 集団ケアから個別ケアへの流れ～グループホームの出現～
7	(野島) これからの認知症ケア
8	(大山) 専門的自己形成と自己覚知の発達
9	(大山) 援助関係のリスク：境界の侵害
10	(大山) 関係を生きるふくしびと
11	(二瓶) 世界の福祉 (1) ～ヨーロッパ～
12	(二瓶) 世界の福祉 (2) ～アメリカ州～
13	(二瓶) 世界の福祉 (3) ～アジア～
14	(宮城) 福祉専門職の社会的役割と地位
15	(宮城) 福祉人材の国際化がめざすもの

評価

教員各自が課題レポートないしはテストによる評価を行う。教員ごとの評価20% × 5人とし、総合評価60点以上を合格とする。

課題レポートないしはテストについては、各教員の授業時に行う。

【フィードバック】各教員の行った課題レポート・テストは、最終授業時に返却する

授業外学習

【事前予習】紹介された推薦書・参考書を読むこと

【事後学修】講義ごとに示される発展的課題を選択して取り組むこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】科目全体に共通する教科書はなし。テーマに応じて適宜プリントを配布する。

【推薦書】テーマにより、教室で紹介する。

【参考図書】テーマにより、教室で紹介する。

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を中心にボランティア・コーディネーションの基本をとらえる。

科目の概要

ボランティアの概観から歴史と性格を理解し、推進するための技術としてボランティア・コーディネーション力を、具体的実践事例 (ゲストスピーカー含む) を交えながら理解することを内容とする。

学修目標 (=到達目標)

1. ボランティアについて理解する。
2. ボランティア・コーディネーションについて理解する。
3. ボランティア・コーディネーターの基本姿勢を身につける。

内容

1	ボランティアについて-概観-
2	ボランティアの必要性と意味
3	実際の活動から学ぶ 本学ボランティアセンターや学内活動
4	実際の活動から学ぶ 社会福祉施設等でのボランティア活動
5	ボランティア活動の内容
6	日本のボランティア活動の歴史
7	ボランティア活動の性格
8	ボランティアの特長
9	ボランティアのとらえ方
10	利己主義と利他主義、ボランティア活動の課題と弱点
11	ボランティアとNPO、ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター
12	実際の活動から学ぶ NPO法人ボランティア活動について
13	実際の活動から学ぶ ボランティアコーディネーターについて
14	これからできるボランティア体験について
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー10%、学修目標に関する中間レポート40%、総括レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】ボランティアについて自分の認識を整理出来るように、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動

等の中から選んで事前理解を心がける。

【事後学修】毎回の授業内容を復習して振り返り、示された図書等を読み、関心を持った活動等について更に調べ、学びを発展的に深める努力を心がける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会編「ボランティアコーディネーション力」中央法規、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

科目名	国際福祉論		
担当教員名	岡田 徹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会福祉はこれまで一国家・一国民社会を前提にして生成展開されてきた。ここでは、この前提をいったん取り外し、「地球の見地に立った人間福祉」を考える。

科目の概要

地球世紀（Global century）と呼ばれる21世紀を生きる私たちにとって重要なキーワードはこの科目にある「福祉」と「国際化」、そして「人間」である。ここでは社会福祉の中で最も創発的な領域である国際福祉の理論と実践を取り上げる。そして先進国型の「福祉」と途上国型の「開発」を包摂統合する概念として「福祉と開発の人的基礎」（「人間福祉」）を提起する。人間福祉とは、＜いのちと存在＞の底面にとどく福祉と開発のことであり、これには「《美》と《魂》」および「《悲》と《愛》」の力添えが要る。

学習目標

- 1) 集中講義ではあるが、可能なかぎり事前にレジュメを配布するので、予習を欠かさないこと。
- 2) 事後に授業内容を振り返って理解すること。
- 3) 上記の2点を通して、自分の関心や専門研究に関連させて意見表明ができるように努めること。

内容

授業の進め方：毎回、講義レジュメを事前に配布する。映像教材を用いる。毎授業時に小レポートを課す。

進行計画

1. ガイダンス（授業の進め方の説明、自己紹介など）
2. なぜ今「国際福祉」か（意義）
3. 国際福祉とは何か （定義）
4. 国際福祉の歴史 （生成展開過程および知見の整理）
5. 国際福祉の実践課題 1 難民問題
6. 同 上 2 HIV・エイズ問題
7. 同 上 3 <南>の貧困問題 バングラデシュの村落および都市開発
8. 国際福祉の理論課題 1 国際福祉の存立根拠 脱主権国家化、グローバル・ミニマム、地球市民社会
9. 同 上 2 ボランティアの可能性
10. 同 上 3 地球の見地に立った人間福祉
11. 同 上 4 「福祉と国家」の再定義(福祉と開発の包摂統合を含む)
12. 福祉の人的基礎 1 《美》《魂》
13. 福祉の人的基礎 2 《悲》《愛》
14. 福祉と開発の人的基礎 森有正のレゾナンス（私の内部の共鳴）
15. 授業の振り返り

評価

ペーパーテスト（40点）、毎授業時のリアクション・レポート（30点）、授業に対する意欲・関心・態度（30点）。
総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

授業外学習

【事前予習】講義レジュメを読んでおくこと。不明な点や意見があれば授業時に質問されたい。

【事後学修】授業後、不明な点が解明されたかどうか振り返り確認し、さらに疑義や意見があれば次回の授業で表明できるようにまとめておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。「講義レジュメ」を事前に配布する。

【参考図書】1. 岡田徹他編 『コミュニティ福祉学入門』 有斐閣 2005年. 2. 岡田 徹「国際社会福祉の歴史的動向」（中村優一・一番ヶ瀬康子編『国際社会福祉』（「世界の社会福祉」第12巻、旬報社、2000年2月、23-82頁）3. 岡田 徹「魂を透過した《美》たちへの旅 もうひとつの福祉」（立教大学『コミュニティ福祉学研究紀要』第13号、2011年3月、221?268頁）4. 岡田 徹「福祉と開発の人的基礎 魂を透過した《美・悲・愛》たちへの旅」（『明治大学心理社会学研究』第11号2016年3月）

科目名	ケア論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする意味では本授業は社会福祉基礎科目として位置づけられる、本科目は社会福祉の ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。またケアリングと癒し (ヒーリング) の関連についても考察する。 ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる。

内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	ケアの経験
4	メイヤロフのケアリング論 (概要)
5	メイヤロフのケアリング論 (展開 1)
6	ケアと共感：ロジャーズのカウンセリング理論
7	ケアと抱え
8	ケアと共依存：依存症、アダルトチルドレン、人格障害
9	ケアと共依存：恋愛依存
10	事例から学ぶケア 1：看護
11	事例から学ぶケア 2：ターミナルケア (キューブラロス、ミンデル)
12	事例から学ぶケア 3：ケアと共依存 (ディズニー映画から)
13	ケアリングとヒーリング：ケイローンの神話から
14	ケアする人の成長
15	まとめ

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】広辞苑や英和辞典でケア (care) の辞書的意味やその語源を調べておく。

【事後学修】メイヤロフのケアの定義について確認し、授業で関心を持ったケアに関連する概念について調べまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。授業中に資料等を配布する。

【推薦書】

ロロ・メイ 『愛と意志』 誠信書房

メイヤロフ 『ケアの本質』 ゆみる出版

鷺田清一 『聴くことのか』 阪急コミュニケーションズ

広井良典 『ケア学』 医学書院

科目名	レクリエーション援助法		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人と人との出会いや人とのつながりにおいて、とても意味のある科目です。特に、社会福祉サービスにおいて、レクリエーションの果たす役割は大きく、注目されています。ここでは、必要とされるレクリエーションの意味と、人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する援助者としての役割について学んでいきます。また、援助者が身につけるためのコミュニケーション技術としてアイスブレイキングやホスピタリティ (心地よさ・人間関係能力) を演習します。これらは、介護の現場において、基本的な学修と言えます。また、人間発達心理学科専門科目のレクリエーション援助法と同時開講となるため、演習を取り入れながら学修していきます。

学修目標は、下記の5点です。

1. 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深める。
2. レクリエーションは、健康づくりをはじめ社会福祉や教育、地域づくり、環境に至るまでの幅広い領域で活用されていることを理解し、援助者としての役割を学修する。
3. ノートやファイルなどを有効に活用し、資料作成を行うと共に、毎時間ごとのふりかえりや記録をとることの重要性を理解する。
4. レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解し、声かけや・態度・行動を身につける。
5. コミュニケーション技術に必要な素材やアクティビティを体験し、人前で提供出来るようになる。

内容

1	はじめまして 出会いの喜び アイスブレイキングの体験プログラム
2	レクリエーションの意義
3	レクリエーションと社会福祉について
4	レクリエーションの支援 利用者と援助者のあり方について
5	福祉レクリエーション援助のプロセス
6	福祉レクリエーション援助のための技術と方法 アクティビティの実際
7	援助者のためのコミュニケーション技法
8	個別レクリエーション援助の立案と方法
9	集団を介したレクリエーション援助の方法
10	対象に合わせたレクリエーション援助
11	レクリエーションとホスピタリティ
12	地域とレクリエーション
13	レクリエーションプログラムの立案
14	アクティビティの提供 グループワーク
15	まとめ

評価

課題・レポート20% 演習発表20% 筆記試験40% 授業態度20% 60点以上を合格とします。合格点に満たな

かった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前準備】毎回、レクリエーションアクティビティの資料を配布するので、予習しておく。

【事後学修】いつでも人前で、アクティビティが提供できるよう、練習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]使用しない。必要に応じて、プリントを配布。

[推薦書]福祉士養成講座編集委員会編集 新版 介護福祉士養成講座 第3版 レクリエーション活動

援助法 中央法規出版 (財)日本レクリエーション協会監修 福祉レクリエーションシリーズ 全3巻 中央
法規出版

ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティトレーニング研究会 遊戯社

参考図書 レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

その他必要に応じて、随時教室で紹介する

科目名	家族生活論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科専門科目「社会福祉関連科目」の2年次以上配当選択科目である。また、中学校教諭一種免許状（家庭）高等学校教諭一種免許状（家庭）の教職課程「教科に関する科目」のうち、「家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）」必修科目である。

科目の概要

生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくり、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族関係における周期的な変化と時代的な変化を、実証的に読み解く力を習得する。

学修目標

家族という小集団の構造と機能、夫婦関係と親子関係について、周期的な変化と時代的な変化を読み解く力を身につける。

内容

1	ガイダンス - 家族の捉え方
2	家族のかたち - 1 . 核家族の二面性
3	家族のかたち - 2 . 家族の種類と分類
4	家族のかたち - 3 . 家族形態の変化
5	結婚と家族形成 - 1 . 異性交際
6	結婚と家族形成 - 2 . 配偶者選択
7	結婚と家族形成 - 3 . 結婚のかたち
8	結婚と家族形成 - 4 . 結婚の変化
9	発達する家族 - 1 . 家族のライフサイクル
10	発達する家族 - 2 . ライフサイクルの変化
11	発達する家族 - 3 . ライフコースと世代
12	家族のライフステージと発達課題 - 1 . 夫婦関係
13	家族のライフステージと発達課題 - 2 . 前期親子関係
14	家族のライフステージと発達課題 - 3 . 後期親子関係
15	総括

評価

授業時の課題30点、学期末試験70点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学内ネットワークの授業用フォルダに置いてあるワークシートで予習する。

【事後学修】ワークシートの解答を確認して、学期末試験に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

野乃山久也編（2009）『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社。

森岡清美（2012）『「無縁社会」に高齢期を生きる』佼成出版社。

比較家族史学会編（2015）『現代家族ペディア』弘文堂

科目名	生活構造論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会福祉学科専門科目「社会福祉関連科目」の2年次以上配当選択科目である。

科目の概要

生活とコミュニティ（地域社会）について、生活構造論からアプローチする。そもそも生活とは多義的な概念であるため、生活構造論は多様である。しかしその基本は、個人または家族の生活状況から社会構造を捉え直そうとする、つまり生活者（個人や家族）の主体性に着目している点で共通している。都市化・産業化によって人々の生活水準は向上したが、それは格差社会をつくりだすことにも繋がった。また、生活の質についてはどうであろうか。この科目では、官庁統計や社会調査のデータを用いて、生活者が置かれている生活状況（生活水準、生活時間、生活空間、生活関係）を確認するとともに、地域社会における生活者の主体形成のありかたを考察する。

学修目標

生活者（個人や家族）の主体性に着目し、生活者の生活状況から社会構造を捉えなおす、生活構造論の基本を学ぶ。官庁統計や社会調査データから生活構造を読み解く力を身につける。

内容

1	生活構造 1：生活構造論とは
2	生活構造 2：生活の指標
3	生活水準 1：家族周期と家計構造
4	生活水準 2：消費行動とライフスタイル
5	生活水準 3：階層・階級と格差社会
6	生活時間 1：生活時間の構造
7	生活時間 2：ワークライフバランス
8	生活空間 1：過疎問題
9	生活空間 2：開発と住民運動
10	生活空間 3：都市問題
11	生活関係 1：自治会・町内会
12	生活関係 2：社会的ネットワーク
13	生活関係 3：ボランティア活動
14	生活関係 4：コモンズとまちづくり
15	総括

評価

授業時の課題50点、学期末のレポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時の課題提出のために準備する。

【事後学修】授業時の課題を復習して、学期末レポートの作成に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

三浦典子、森岡清志、佐々木 衛 編（1986）『生活構造』（リーディングス日本の社会学5）東京大学出版会。

堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著（2008）『地方からの社会学』学文社。

科目名	家族と労働法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

女性の家庭生活および職業生活に関わる法律を取り扱います。具体的には民法家族法（親族・相続）の基礎を学び、働く女性を取り巻く環境と法律・制度との関わりについて検討することになります。

科目の概要：

現代の日本社会においては、個人の価値観が多様化し、それに伴い家族生活も多様化しています。これは夫婦別姓、シングルマザー、離婚の増加に現れている通りです。また、少子高齢化の進行は今までにない新しい家族の問題を生んでいます。子のない夫婦の養子縁組や生殖補助医療で子どもをもつことには、親子についての法的な課題も生じます。認知症で判断力の弱った高齢の親の財産関係については、新しく成年後見制度が設けられました。また、家庭を持ちながら働く上でライフ・ワーク・バランスという考え方も注目されてきています。女性が家庭生活と職業生活を営む上で法律の果たす機能と、課題についても考察します。

学修目標

この授業では、家族法の基礎知識の習得をし、現代の職業人が家族生活を営む上で課題をめぐる法制度状況について理解を深めることを目的とします。また、知識取得のみならず、適宜事例について検討し、各自が意見を書いたり、演習問題を解くことを通じて論理的思考力や課題解決力の養成も目指します。

内容

1	家族問題と法
2	婚姻と法
3	婚姻と財産
4	離婚と法
5	離婚と財産と子ども
6	親子
7	内縁と認知
8	家族法の現代的問題
9	氏と戸籍
10	扶養・成年後見
11	相続 相続人と相続財産
12	相続 法定相続
13	遺言・遺留分
14	働く女性と法
15	総括

評価

提出物・受講態度（40点）、ペーパーテスト（60点）を総合して評価します。

100点満点中60点が単位取得の下限です。

授業外学習

【事前予習】課題（授業中指示された課題、資料を読む等）の準備をする

【事後学修】学んだことを踏まえ、家族と法の課題について関心と理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料等は適宜配布する。

【教科書】 開講時に指示

【参考書】 『家族の法[第3版]』 利谷信義（有斐閣）

『デイリー六法』（三省堂） その他の六法も可

科目名	生活と政治行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

政治行政、ネットと世論などに関わる基礎知識を日本の課題などの時事問題に関連付けながら学ぶ

科目の概要

政治的決定のルール、行政のしくみ、インターネットが世論、民主政治にどのような影響を与えるか、時事問題などを学ぶ。現在の課題(例えば、景気問題、少子高齢化と福祉の問題、財政赤字、憲法改正、原発再稼働、TPP、安全保障など)がどのように決められていくか、どのように決めていくべきかを考える。

学修目標(=到達目標)

現在の日本の課題を題材として政治行政、インターネットと民主政治の基礎知識を修得するのみでなく、その知識を生かしてものごとを把握する力、解決策を論じる力を身につけることを目標とする

内容

- 1 ガイダンス 現在の日本を取り巻く諸問題と政治行政、ネットと世論
- 2 現代日本政治の諸問題 安倍首相の目指すもの-安全保障、国際協力、憲法改正、アベノミクス
- 3 現代アメリカ政治の諸問題 トランプ大統領の諸政策、安全保障、アメリカを偉大に、保護主義、移民、日米関係
- 4 財政赤字と諸問題 財政赤字、福祉国家論と小さな政府、財政危機と社会保障、地方自治体と社会保障
- 5 政治のしくみ-国会・内閣、議院内閣制・大統領制、行政のしくみ-中央省庁・地方自治体の役割
- 6 政策決定システム 選挙と政権交代、与党と野党、官僚制度、長期政権と1年で交代する政権の違い
- 7 政策決定システム 法律・予算ができるまで
- 8 前半まとめ
- 9 メディアと世論 世論とは、マスメディア、インターネット
- 10 SNSと世論 フェイスブック、ミクシィ、電子掲示板、トランプ大統領のツイッターによる影響力
- 11 インターネットと選挙 マスメディアと選挙、「ネット選挙」解禁、ネットの影響力、ネット選挙と法規制
- 12 ネットによる世論形成の問題点 誹謗中傷、エンブレム問題に見る「正義の鉄槌」、受けるための極論、当事者による世論操作、国家・政府の検閲、世論操作、コントロール
- 13 ネット世論と個別課題-憲法改正、アベノミクス、ネットと政策評価
- 14 ネット世論の限界と可能性-匿名性と責任、政治行政のプレイヤーへの影響、情報発信による影響力-ウィキリークス・ウィキペディア、ネットメディア、個人の情報発信
- 15 後半まとめ

評価

小試験と課題など(70%)、平常点(30%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に予告された授業内容、政治行政に関連する論点・時事問題等について予習する

【事後学修】授業で学習した論点・内容について調べ、それらについての自分の意見・考え方をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レジュメ・資料などを配布する。

【推薦書】堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第3版』一藝社

岩井奉信『立法過程』東京大学出版会

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指文字などの基礎を理解します。

学修目標（=到達目標）

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字（ア～サ行）
5	名前に関する表現
6	指文字（タ～ハ行）
7	趣味に関する表現
8	指文字（マ～ワ行）
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要：

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

学修目標 (= 到達目標)：

1. 障害の理解。
2. 各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
3. 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは
- 3 自閉^ス外^ム症児・者の心理学的特徴と支援 (1)
- 4 自閉^ス外^ム症児・者の心理学的特徴と支援 (2)
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援
- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ
- 12 グループ発表 (1)
- 13 グループ発表 (2)
- 14 グループ発表 (3)
- 15 まとめ

評価

100点満点中、日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書あるいはプリントの該当ページを予め読んでおいてください。

【事後学修】講義終了時に毎回課題を出しますので、それに基づいて当該講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

評価

期末テスト80%+授業内の課題20%とし、総合評価60点以上を合格とする

成績をもってフィードバックとする

授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（=到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業時の発表や卒論作成に向けた課題作成や質疑に返答し、学習理解を深め、より卒論の質的向上が図られるようにする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】年に数回、個別面談をしながらその都度フィードバックする。完成した卒業研究は最終修正を行い、卒業研究発表会を経て、卒業論文集として印刷製本する。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。卒業研究にはコメントを付し卒業時まで返却する。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。卒業研究提出は、必修の卒業要件である。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定。

先行研究の整理。

研究方法・手続きの理解。

研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。

構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。

卒業研究の作成。

結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】卒業研究作成過程の発表・提出等のフィードバックは、授業時に口頭で行う。

提出された卒業研究については、学科内の教員による講評をいただき、それを含めた講評をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。ゼミメンバーの卒業研究に関心を持ち、成果を共有できるよう、下級生向けの報告会や印刷物とりまとめなどを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導を行う。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

川村匡人・川村岳人『改訂福祉系学生のためのレポート&論文の書き方』中央法規

その他参考文献については、ゼミの中で紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック 適宜提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか、具体的にコメントし、参考にしてもらう。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における学びの総まとめとして、3年次の人間福祉演習に引き続き、興味・関心のある分野からテーマを絞り、卒業研究にまとめる。

科目の概要

自ら興味・関心を持った分野の一つのテーマについて、文献・資料の収集を行い、先行研究を整理し、自分の考えを加えて卒業研究としてまとめていく。ゼミ内で各研究段階で報告を行い、担当教員や他の受講生の指摘や批評を受けながら研究を進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自ら選定したテーマについて、一定枚数以上の卒業研究にまとめる。

内容

卒業研究では、選定したテーマの先行研究について調べてきたことをもとに、学生の興味・関心をさらに掘り下げ、積極的に研究活動に取り組む。研究を進める過程では、ゼミの他の受講者と途中経過を報告しあい、進捗や研究内容・手法の確認をしながら進めていく。これまでの大学での学びや実習等における経験を活かし、必要な文献収集や調査を行いながら卒業研究をまとめる。

評価

提出された卒業研究(80%)、研究テーマに取り組む姿勢(20%)を評価対象とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。
- 【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。